

# 令和6年度病害虫発生予察注意報第4号

令和6年7月26日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が水田周辺のイネ科雑草地や既に出穂している極早生品種や早植えの早生品種などで多く、斑点米被害の多発が懸念されます。今後、水稻の出穂とともにカメムシ類が水田へ飛来してきますので、穂揃い期から乳熟初期の防除を徹底しましょう。

## 病害虫名：斑点米カメムシ類（アサジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなど）

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生量 多い
- 4 注意報発令の根拠

- (1) 現在、水田周辺のイネ科雑草地では、主にアサジカスミカメ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシなどが発生している。  
7月13～18日に行った巡回調査の結果、捕虫網5往復10回振りすくい取りの平均成幼虫数は354.3頭（平年：298.6頭）と平年よりやや多く、過去の注意報発令年と同程度の発生となっている（表1）。
- (2) イネ科雑草地では、アサジカスミカメ及びクモヘリカメムシは大量発生している地点が県内全域に点在している。さらに、クモヘリカメムシの発生か所率は80.0%（平年：30.9%）で、過去20年間でも最も高い。
- (3) 既に出穂している極早生品種や早植えの早生品種では、クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシが大量に飛来しているほ場が県内全域で散見されている。
- (4) 気象予報によると、向こう1か月は平年と同様に晴れの日が多く、気温は高いと予想されており、出穂期を迎える水田でのカメムシ類の加害活動及び増殖に好適な条件になると見込まれる。

## 5 防除上注意すべき事項

- (1) 水田周辺の雑草地、畦畔などのイネ科雑草はカメムシ類の増殖源となるので、適正な管理を行う。出穂20日前頃に畦畔などの草刈りを行ったほ場では、再生したイネ科雑草が出穂する前に再度草刈りを行うと、カメムシ類の密度がさらに低下する。一方、出穂20日前頃に畦畔などの草刈りを行っていないほ場では、穂揃い期から乳熟期に草刈りを行い、その直後に、水田に追い込まれたカメムシ類を粉剤、水和剤などで防除する。
- (2) 薬剤防除は適期に行う。  
ア 粉剤、水和剤などを使用する場合  
薬剤防除は穂揃い期から乳熟初期に行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。防除は地域一斉で行うと効果が高い。なお、出穂前散布の防除効果は期待できない。

## イ 粒剤を使用する場合

発生の主体がアカスジカスミカメの水田では、粒剤による防除も可能である。病害虫防除指針などを参考にして、各薬剤の散布適期に湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認するとともに、止水期間を7日間とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。また、散布後も発生が多い場合は粉剤、水和剤などで追加防除を行う。

なお、クモヘリカメムシやホソハリカメムシに対して、粒剤は実用的な防除効果を示さない。

ウ 防除薬剤は表2を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

- (3) クモヘリカメムシ及びホソハリカメムシはイネの登熟後期まで水田内で発生する。そのため、これらの種の発生が多い場合は防除後も発生状況に十分注意し、要防除水準（25往復50回振りすくい取り虫数4頭以上）を超えた場合は直ちに追加防除を行う。
- (4) 水田内で穂をつけたヒエ類はカメムシ類の発生を助長するので、見つけ次第抜き取る。
- (5) イネカメムシが発生している地域では、本種の適期防除を徹底する（令和6年7月12日付の令和6年度病害虫発生予察注意報第3号を参照）。
- (6) 薬剤散布にあたっては、農薬使用基準を遵守するとともに、蜜蜂被害軽減対策などに注意する。

表1 水田周辺のイネ科雑草地などにおける斑点米カメムシ類の発生状況（7月中旬）

調査年	斑点米カメムシ類の種類別成幼虫数					合計
	アカスジカスミカメ	ホソハリカメムシ	トゲシラホシカメムシ	クモヘリカメムシ	その他	
令和6年	313.6 (100%)	2.3 (43.3%)	0.2 (3.3%)	23.9 (80.0%)	14.3	354.3
平年	275.6 (90.2%)	1.7 (44.7%)	0.5 (12.0%)	12.5 (30.9%)	8.4	298.6

注) 数字は捕虫網5往復10回振りすくい取り成幼虫数、括弧内は発生か所率を示す。  
巡回調査定点地区及びその周辺地区のイネ科雑草地（2～3か所/地区）などを調査。  
（19地区47か所調査）  
平年値は平成28年～令和5年の平均値（ただし、令和2年と令和3年は調査未実施）。



写真1 アカスジカスミカメ

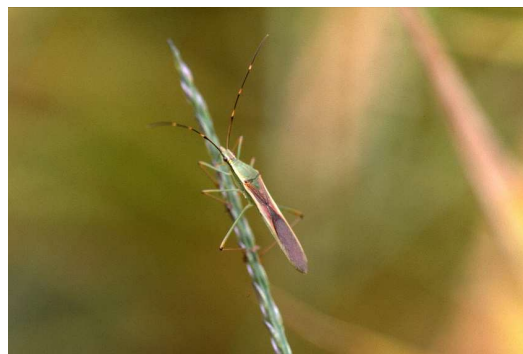


写真2 クモヘリカメムシ



写真3 ホソハリカメムシ



写真4 トゲシラホシカメムシ

表2 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

剤型	薬剤名	使用時期	使用回数	IRAC コード
粉剤	トレボン粉剤DL	7日前	3回以内	3 A
	ジノテフラン粉剤DL (商品名：アルバリン粉剤DL /スタークル粉剤DL)	7日前	3回以内	4 A
	ダントツ粉剤DL	7日前	3回以内	4 A
粒剤	ジノテフラン粒剤 (商品名：アルバリン粒剤/ スタークル粒剤)	7日前	3回以内	4 A
	ダントツ粒剤	7日前	3回以内	4 A
	キラップ粒剤	14日前	2回以内	2 B
乳剤、水溶剤 など	トレボン乳剤	14日前	3回以内	3 A
	アルバリン顆粒水溶剤	7日前	3回以内	4 A
	スタークル液剤10	7日前	3回以内	4 A
	ダントツフロアブル	7日前	3回以内	4 A
空中散布剤	スタークル液剤10	7日前	3回以内	4 A
	トレボンエア	14日前	3回以内	3 A
	ダントツフロアブル	7日前	3回以内	4 A

(お問い合わせ)

鳥取県病害虫防除所（鳥取県農業試験場内、電話：0857-53-1345）

この情報は、鳥取県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.jppn.ne.jp/tottori/> です。

